

寺 報



第167号

発行人

伊 勢 徳

発 行 所

真宗大谷派 称念寺

知立市新地町西新地65

TEL (0566) 83-8888

FAX (0566) 84-1262

www.shounenji.com

印 刷

有限会社 クシロ印刷

国王の忘れ物

思う存分に自我が発揮されるのが台所である。その独立国の主導権は我にあり。手始めは食材の買い出しから。元来食べることが好きなので、自分好みに食料を自在に調理する準備はさほど苦にならない。スーパ―の中を闊歩しながら、頭の中でアレコレ計算しつつ、三日後までの食材を買い付ける。交代で台所を任された私には、調理の仕方や味付けの塩梅、炊き上がりの米の硬さやおかずの盛り付け、食器の洗い方とその拭き方、棚に並べて片付ける配置に至るまで、「私なりの方法論」が詳細に確立されている。使用する雑巾すら、水の吸収力

を鑑み選りすぐる。勿論、家族にテーブルを拭いたり箸を並べるよう手伝いを指示するタイミングも、スマホや宿題などの相手側の都合に関係なく、私の時間軸による。最後まで我流を貫き、そして無事完了するほどに「これでよし」と私の自我が満足する。

その場合は、まるで自分が王様であるかのように、自己の決定が善であり、法であり、正義となる。逆に、王国の秩序を乱す者、国王の思い通りにならない者、完全な支配に都合の悪いこと、それらは必然的に悪となる。私は決して潔癖で神経質というのではないが、小さな事が気に障る。例

報恩講の日程

7:00~ おあさじ	21日(月) 御伝鈔(上巻)
18:00~	お初夜 勤 行
18:30~	法話 畠山 浄 師

宗祖・親鸞様の『ご絵伝』四幅は南余間に掛けられます。

令和4年度の年会費の振り込み、郵便局から振り込んでください。
(注)22・23の両日に限って、玄関での「受付」で納付できます。

7:00~ おあさじ	22日(火) 御伝鈔(下巻)	23日(祝・水) 御俗姓拝読
8:00~	第1日中 法 要	第1日中 法 要
8:30~	法話① 畠山 浄 師	法話① 海 法龍 師
10:00~	大連夜(楽)	ご満座(楽)
10:45~	法話② 畠山 浄 師	法話② 海 法龍 師
12:00~	※受付でお齋券(両日共50食)を配布します。券のある方は、会館にてお齋について下さい。 ※お齋券のない方は、10時から受付にて“银杏ご飯”を配布いたします。	

- ※おつとめと
奏楽の練習
5日(土)・16日(水)
午後6時30分〜
- ※仏具のおみがき
15日(火)
午前9時〜
- ※お華講(仏花)
18日(金)
午後6時30分〜
- ※お荘厳(お華束)
19日(土)
午前9時〜
- 五色幕を掛けます。
高張提灯、玄関幕を吊るします。
- ※おせえ勤行
23日(祝・水)
仏具の片付け後
午後2時〜
- ※お花の『芯』は松を
充当します。季節の花
を添えます。

えば、予定していたオムライスの材料である冷蔵庫の卵が、自分の知らないうちに食べられてしまった、というような些細な事柄である。出来あがつた折角の食事に対し、高校三年の長女は「今はいらぬから後で食べる」などと平気で言う。こちらは温かい状態で美味しく食べて欲しいのに、何度も続くと怒鳴り声もでてしまう。また他の者が片付けた食器の置き位置が気に入らず、舌打ちして並べ直しもする。或いは、洗い終えた食器を水切りに捨て置き終わりとする中途半端さや、また炊飯器の内蓋を毎度は洗わずともよしとする妻の方針にも腹を立ててみたり、全て洗い物が終わつた後に子どものカバンから出てくる弁当箱や、それはもう、キリがないほど沢山の「邪魔」が存在する。私をイライラさせる「自我のこだわり」を少しでも捨てられれば楽になるが、生きることについて「私」と「国王たる我」は同義であろう。

私達の人生における「生き辛さ」や「不満」の正体は、

実はこんなところに在る。思い通りにしたいという煩惱が、思い通りにならない現実を受け止められず、心中の苦悩となつてゐる。台所でなくとも、学校でも職場でも、長年連れ添つた夫婦関係でも、自分の想いを理解してもらえなかつたり、時に裏切られたり、嫌な思いをさせられるたびに「あいつが悪い」だの「間違つた奴だ」と他者にレッテルを貼ることで自尊心を納得させている。側から見れば、自己中心的な評価基準だと明らかだが、本人からすれば理屈も通つており、また意図せず「そうせざるを得ない」もの、つまり自己愛による自分本位の正しさが、周囲には迷惑な善意をより一層駆り立てる。傷つきたくないので防壁を積み上げ、自分の考える善に没頭するあまり、隣の人の気持ち

ちも見えなくなり、更には身近な人を力でねじ伏せ隷属させ、言うことを聞かなければ平気で排除していく。更に政治の世界では、法の下に大多数にとつての利害と意思を強要し、また自己の理想を遂げるため侵略や戦争という手段で民衆を殺していく。人は悲しいことに、自らの世界観で意味に迷えば、自分が生きる価値をも否定してしまう。い



「クモ」徳風5歳児 飯田泰仁

ずれも王たる人間の罪悪が織り成す「穢土」の様相は酷似している。その自在の王国を牢獄だと喝破し、その檻の囲いを超え出た処にこそ本願を見出したのがブツダ釈尊の教えであった。事実、好きなものを並べ、最も居心地を良くした自らの家庭で鬱々と虚しさを感じる私達の日常がある。

この数ヶ月間でウクライナでは、一体どれくらいの命が失われたのであろうか。決して兵士だけではなかつたであろう。子どもや女性、老人までもが、各所で残酷に殺されたと想像する。二度と戻ることのない命。深い悲しみが何人の胸を引き裂いたであろうか。彼らの命を奪つたロシア兵は自らが生きる為だったのか、逡巡しながら武器に手を掛けたのか。戦禍を逃れ難民となつた人々は、いま何を想うのか。故郷を、家族を、生活を奪われた人々の恨みは、この先何処へ向かうのだろうか。「ポセイドン」と呼ばれる核魚雷を海中で爆発させることにより、敵国沿岸に高さ五百

報 恩 講

11月21日(月)

午後6時

法話 畠山 浄 師(七尾市)

11月22日(火)

午前8時・10時 法話 畠山 浄 師

11月23日(祝・水) 午前8時・10時 法話 海 法龍 師(横須賀市)

仏典マンガ

絵：小川ゆきえ (58)

仏さまのおしえ

出典は『パンチャントラ』 インドの説話集、世界最古の物語集です。





「カメ」徳風5歳児 加藤健剛

メートルの津波を発生させる潜水艦の準備がロシア側に整ったとも噂されている。世界のリーダーの狂気と科学文明の影、国際社会の利害と思惑、経済中心の価値観とそして情報化社会の混沌で、すでに戦争犯罪や環境破壊を含む諸悪の自浄作用が無力化した時代が実現していよう。取り返しのつかない危機的状況にも慣れ「命を大切にする」、「他者と共に生きる」、そんな言葉の理想が白々しく、根底に願われた響きと悲しみすら見失ったこの時代を生きる私達は、いま何を抛り所として、何を大切に生きていくのか、何を残そうと死んでいくのか。「南

無阿弥陀仏」の言葉から教えられる「私の宿業」とは何か、「国王」こそが見失ったものは何なのか。この混沌極まる世相の報恩講に、七百年を経た聴聞の場に身を据え、共に浄土からの阿弥陀というはたらきに耳を傾けたい。

「文章 若院」

若院の伝道揭示板

●頑固一徹

ひとり大満足

まわり大迷惑

●失って初めて

気付かされた尊さを

また見失う私

■娑婆の縁 尽きて

服部 正 82 東新地 9・1

田中 新 73 堀切 2

二宮 晃 78 山町 8

伊與田清 92 内幸町 12

小河康純 86 中町 29

■除夜の鐘

大晦日午後11時45分より

■修正会

元日 午前0時 本堂にて

■第20組聞法会

日時 1月9日(祝・月)

午前10時〜12時

法話 ジェシー・釋尼萌海

参会費 一人五百円



スイス出身の女性僧侶です。生まれ故郷で「積極的安楽死」に

より母親を亡くした悲しみを機縁として真宗大谷派にて得度、お念仏の教えに照らされながら「命は誰のものか」を問い続ける。京都在住、尺八奏者。

■春彼岸法要

日時 令和5年3月21日(祝火)

午前8時・10時

法話 三島清圓 師

▽祠堂 永代経のご志納

・杉浦 誠治 様 山町

◎信は莊嚴より

報恩講を執り行うに当たっては、全てが格調高く準備に入ります。平常は三具足であるが五具足に変わります。香炉・花瓶・きん・打敷・仏飯器なども最も格調の高い什物・

仏具を使用するため設置します。朱の蠟燭も二〇・三〇・五〇匁などが充たされます。



平常の青磁香炉→報恩講用香炉(透かし雨龍) 欽古堂亀佑・造

莊嚴の基幹は「おみがき」と思う。なるべく早く短時間で簡略化するなど、日ごろの怠け心が問われてきます。横着な対応が身にどっぷり漬かっている事に気付かされます。

お内仏(本堂)の莊嚴、かれこれ50年してきたことだが、全く至らない姿勢が厳しく問われます。「信は莊嚴より」、仏法聴聞に極まることなり(蓮如上人御一代記聞書)と教えられます。

「文章 住職」

手伝いの 馴染み同士の 親鸞忌 佐々木綾華